

》株式会社 秋田マシナリー

特定の分野に依存しない経営に向かって 機械と人の技術を融合し業績向上に努める

精密板金加工を
多分野で活躍させたい
新規取引先の獲得へ



取締役社長 小林 徳之
株式会社 秋田マシナリー
〒018-0148
にかほ市象潟町字下浜山9-20
TEL:0184-43-2236
FAX:0184-43-2322
<https://www.akitamachinery.co.jp>



HP



支援を受け、精密板金加工の可能性を広げる

にかほ市の北部工業団地内に工場を構える株式会社秋田マシナリーは、シブヤグループの中核企業である丸大機工株式会社の製缶・板金部門から、平成5年に分社独立した。現在は精密板金加工に特化し、CAD/CAMを使った作図から、ファイバーレーザー複合機による打抜き切断やプレスブレーキでの曲げ加工、出荷までを行っている。主力の半導体関連の装置部品のほかに、医療機器分野や食品分野の筐体部品など多分野の製品を製造しているが、以前は半導体関連の受注が9割だったという。需要に波がある半導体分野との取引に偏ることへの不安を感じていた小林徳之さんは、社長に就任した1年後の平成26年に活性化センターに相談。取引あっせんの支援を受け、センター主催の「ものづくり商談会」や「受発注報告会」に積極的に参加した。企業間での情報交換の機会を増やし、取引先の範囲を東北地方から関東圏にまで広げたことで、医療機器や食品関連など新規分野の取引先を獲得した。

周りの声に耳を傾け、さらなる業績向上へ

未開拓だった分野への挑戦では、依頼された部品について学び、製造環境を整えることから始めた。取引先からの声を聞き、求められる品質を提供することを積み重ねて、信頼関係を構築してきた結果、加工から検査員認定までを一貫して任せてもらえるようになる。安定した受注が見込める医療装置分野の参入により、同社の業績は参入以前に比べ、約3倍に伸びた。

最近では、受注量の増加に伴い、稼働効率を上げるために設備投資にも注力している。展示会へ出向いて最新の機械をチェックして導入するだけでなく、LED照明や冷暖房の設備など、社員が働く環境も改善している。

「今年の11月には無人稼働を想定したレーザー加工設備の導入と、第二工場を増設し、12月中旬から本稼働を予定しています。機械が担える仕事は機械の力を駆使しますが、それでもやはり最後は人の手が必要です。まだまだ人手不足は解消されませんが、できることから取り組んでいきます。」

今後は社員の声を取り入れながら、会社全体や顧客、すべての人がWINWINになれるよう成長していきたいと意気込んだ。



新型の曲げ設備では、ネットワークでデータを共有している。作業者が代わっても品質の良い部品が完成する。



ドイツ製のファイバーレーザー複合機を使うようになり、今まで手作業だった段取り時間がなくなり効率上がった。



客先より検査員認定を取得した検査員が、図面と突き合わせながら念入りに部品を検査する。